

<資料 2 >米核態勢見直し(本文抜粋訳)

[核および非核攻撃の抑止]

米国は自国と同盟国、パートナー国の死活的な利益を守るための極限的な状況においてのみ核兵器の使用を検討する。極限的な状況には、非核の重大な戦略的攻撃が含まれる。非核の重大な戦略的攻撃とは、それに限定するわけではないが、米国と同盟国、パートナー国の一般市民やインフラストラクチャーに対する攻撃、さらに米国と同盟国の核戦力、その指揮・統制・警戒・攻撃アセスメント能力への攻撃が含まれる。(本文 21 ページ)

[非戦略核能力により抑止力を強化]

北朝鮮は、米国、同盟国及びパートナー国に脅威を与えるために、様々な戦略及び非戦略核システムを違法に開発している。同国は、これらのシステムに、米国に対する戦略核による攻撃の脅威が加わった場合、危機や紛争において自国に優位な核エスカレーションの選択肢が得られると誤認するかもしれない。

(中略)

この種の挑戦に対処し、抑止上の安定を維持するために、米国は、個別の状況に応じてあつらえた、抑止のための選択肢の柔軟性を高め、その範囲を拡大する。米国の戦略は、より拡張的なロシアの保有兵器に量的に対抗したり、それをまねるような非戦略核能力は必要としない。むしろ、米国は、米国の必要性に答えるため、とりわけ、いかなる敵も、いかなる状況においても、限定的な核エスカレーションまたはその他の戦略的攻撃により優位な立場に立てると認識しないことを確実にするために、規模を調整し、態勢を整えた多様な能力を維持する。

(中略)

数十年に渡り、抑止力と安心感の提供を強化するため、米国は、低威力の核の選択肢を使用してきた。今、低威力の核の選択肢を含め米国の柔軟な核の選択肢を拡大することは、地域的な侵略に対して信頼できる抑止力を維持するために重要である。誤解のないように言うと、選択肢の拡大は、「核戦闘」を可能にすることを意図したものではないし、可能にするものでもない。核使用のハードルを下げるものでもない。むしろ、米国の持つ、個別の状況に応じてあつらえた、対応のための選択肢を拡大することは、核使用のハードルを高め、潜在的な敵が限定的な核エスカレーションから優位性を得られる可能性を認識できないことを確実にするのを助け、核使用の可能性を減らすだろう。(本文 54 ページ)

現在も継続中のロシアによる INF 条約違反に対して、中距離核戦力 (INF) 全廃条約に準拠した対応 (を提供するだろう。) もしロシアが軍備管理の義務を再び遵守するようになり、自国の非戦略保有核兵器を削減し、その他の安定を損なう行動を修正する場合は、米国は、SLCM の開発の推進を考え直すかもしれない。

(中略)

まさに、米国が SLCM の開発を推進することが、ちょうど、西側諸国がヨーロッパに中距離核戦力を先だって配備したことが 1987 年の INF 全廃条約の締結につながったように、ロシアが真剣に自国の非戦略核兵器の削減を交渉するためのインセンティブを提供するかもしれない。当時国務長官であったジョージ P・シュルツが「もし西側諸国がパーシング II と巡航ミサイルを配備しなかったら、ソ連に核兵器削減のために真剣に交渉するインセンティブは存在しなかった」と述べたように。

(中略)

2010 年度の NPR において、米国は、過去数十年間に渡り、抑止力、及び同盟国、とりわけアジアの同盟国に安心感を与えるのに貢献してきた、従来型の核武装した SLCM の退役を宣言した。抑止力及び安心感の提供を強化するための柔軟で低威力の選択肢に対する増大しつつある必要性を鑑み、我々は、最新の SLCM を迅速に開発するための選択肢の分析 (AoA) につながる能力研究を開始して、この能力を回復する努力を直ちに始める。最新の SLCM は、海洋配備された核抑止力の効果を強化することになり、LRSO を補完するものである。しかし LRSO は三本柱のうちの空中における効果的な柱の維持に必要なため、(SLCM) は LRSO を代替することはできない。(本文 55 ページ)